

日本の家に帰ろう。

# 完・成・見・学・会

## 3/6(土)・7(日)・8(月)

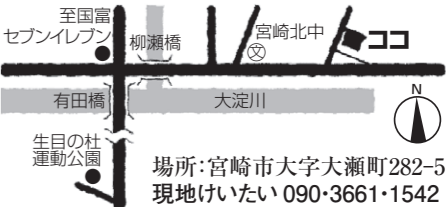
二個所同時開催

10:00~17:00

<http://www.sennin.co.jp>



大瀬町の家。同時開催



場所:宮崎市大字大瀬町282-5  
現地けいたい090・3661・1542

建築士募集中  
履歴書受付中  
選考後日連絡



株式会社 千 せん にん 人

0120-100076

宮崎南店 〒880-0932 宮崎市大坪西2丁目1-11  
TEL0985-54-1600 FAX0985-53-8700

都城店 〒885-0041 都城市一万城町102-15  
TEL0986-26-1000 FAX0986-24-8483

宮崎県職員互助会指定店 ■宮崎県学校生協指定店  
宮崎県職員互助会指定店 ■宮崎県職員互助会指定店  
Eメールアドレス [sennin@sennin.co.jp](mailto:sennin@sennin.co.jp)

# 和魂洋才。

## 始めまして、 「ハウス・バタフライ」。

19世紀末、「手仕事の復権」を唱えて、イギリスで興った  
アーツ・アンド・クラフト(工芸復興)運動。その流れの中  
で生まれた「バタフライプラン」。いま時空を超え、日本  
民家の伝統と住文化に、この宮崎の風土を融合させ、  
この地域における新しい住まいの形を提起。



# 大塚台の家。

床面積30.9坪・平家・収納率19.2%

営業案内・設計施工 ■住宅・新築・増改築・リフォーム・家具・収納・建具・システムキッチン ■古民家再生・保存・移築 ■ハイブリッドソーラーハウス・及び太陽光発電 ■商店・医院建築など



場所:宮崎市大塚台西1-4-11 現地けいたい090・3661・1541

居間から南を見る。障子を開けると主庭が現れる。左45度(南東)方向に台所・食堂が隔開きの窓がある。右45度(南西)方向には寝室。後方(北)には和室(夏座敷)があり、地窓から裏庭が見える。座卓は当社のオリジナルデザイン。  
■「ハウス・バタフライ」は、どの方位の接道にも対応します。また2階建てプランも可能です。



ウィリアム・モリス

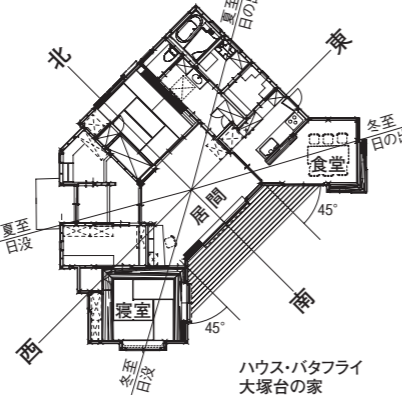
## アーツ・アンド・クラフト運動

19世紀末、イギリスの産業革命による工業生産の流れに抗して始まった、アーツ・アンド・クラフト(工芸復興)運動。その中心になったのが近代デザインの元祖ウィリアム・モリスです。モリスは工業製品があふれていく社会の中で、「手仕事の復権」を唱え、「美しくないものは部屋に置いてはならない」と説いて、「手仕事」による良質なデザインを追求し、それらを生活の中に取り入れることによって、健全な人間の精神と、社会の調和をめざしました。

バタフライプラン  
アーツ・アンド・クラフト運動は建築の分野にも及び、様々な建物が建てられました。その中の一つに「バタフライプラン」と呼ばれるものがあります。これはホールを中心に両側の部屋が45度の角度で突き出ているもので、平面図が蝶が羽根を広げたように見えることから、そう呼ばれたものです。この「バタフライプラン」の特徴は「平面が左右対称であるにもかかわらず、屋内からの眺望、屋外からの眺望が、人が移動するたびに変化すること」にあります。家に囲い込まれた庭もそれぞれの部屋の奥で異なって見えます。庭(自然)との感覚が自ずと促され、いわば一つの庭が眺望ともども三度楽しめる寸法です。

和魂洋才  
いうならば西洋の理想主義が生んだこの「バタフライプラン」と、これまで蓄えられてきた日本民家の伝統と住文化とのすり合わせを生んだ「深軒」と合体させ、和魂洋才の結晶とも言えるべき一つの新しい建築形態、「ハウス・バタフライ」の完成をここに見ることが出来ました。もちろん「ウィリアム・モリス」がめざした「手仕事への復権」もキッチン手筈を整えたいつもりです。

「ハウス・バタフライ」では居間を中心に日の出側に食堂、日没側に寝室が子午線(南北の方位線)に対して45度の角度で突き出しています。従って、居間・食堂・寝室には四季を通じてその季節に最もふさわしい光が差し込みます。たとえば冬、日の出とともに食卓に跳び込んでくる黄金の朝日は、夏の食卓に照りつけることはありません。また、夏の間、夏の西日を避けた寝室や食堂には冬、日の出から日没までたっぷり太陽が居座つてくれます。夏の居間には深軒効果によって陽はほとんど差込み、逆に冬には日の出から日没まで、室内奥深く侵入し長居してくれれます。また、居間・食堂・寝室はサンデッキでつながっていて、それはよい日だまりとなって日々の暮らしに彩りを添えてくれるはずですよ。



## 大自然に同調

最後に強調したいのは、この「ハウス・バタフライ」が、住み心地への飽くなき希求の末に、生まれたということです。日常のありふれた過し方、暮らし方、その「コマ」を丹念に拾い出し、人の居場所と物の居場所を丁寧に住み分けさせながら、30坪余の家に19.2%の収納率、しかも何百万年にもかけて人類を進化させてきた太陽の運行という大自然の秩序に、人の日々をしなやかに同調させ、それが住み心地——つまり人がつながらなく自然に生きる幸せ——の基本ではないかと考えてきた結果、「ここに辿りついたのです。文字通り「ハウス・バタフライ」は住み心地に向けて翔び立つとする蝶なのです。